

CONTENTS

■ 理事長室から	3
海上技術安全研究所 茂里一 総理事長 新春インタビュー	4
■ 寄稿：人材育成に関する雑考	9
寺西 勇・株式会社三和ドック 代表取締役	
<b>海技研の研究紹介</b>	
実運航性能シミュレータ VESTA の開発	10
粉原 直人	
■ 寄稿：多軸慣性センサの感度 －感度マトリックス－	13
梅田 章・産総研評価部	
<b>青春グラフィティ</b>	
若手研究者に聞く④	18
三宅 里奈	
<b>海外だより</b>	
私の出会った世界で活躍する日本人たち	20
近内 亜紀子	
<b>新造船紹介</b>	
バリアフリー対応の省エネ船 「フェリー波之上」	21
マルエフェリー株式会社	
<b>新造船写真集</b>	
おおしまⅡ／第五菱化丸／松涛丸	24
<b>TOPIC</b>	
広島市で第12回講演会を開催	2
海底土セシウム134・137の濃度連続計測に成功	26
低VOC塗料が第10回産学官連携功労者表彰	26
マテリアルライフ学会が来所、「船底防汚塗料」聴講	27
マリンエンジニアリング学会が研修と施設見学	27
仏IRSNのダランドル国際協力課長が来所	28
三鷹・第3中の生徒7名が2日間の職場体験学習	28
吉村主任研究員がICETET-12の最優秀論文賞受賞	29
テクノオーシャン2012最終日に講演会を開催	29
次世代AISワークショップ関係者が施設見学	30
東京大学の学生が訪問、ミニ講座と施設見学会	30
3研合同で島根県立浜田高校理数科生徒16名を受け入れ	31
洋上浮体のVIM(渦励起動揺)公開実験に19名が参加	31
<b>【おしらせ】</b>	
4月21日(日曜)に研究施設を一般公開	32



フェリー波之上

TOPIC

2012 年度講演会開催



会場風景



茂里理事長



1階入口

広島市で第12回講演会を開催  
省エネ・環境対策技術をテーマに

海上技術安全研究所は昨年10月9日、広島市内のホテルで2012年度講演会(12回目)を開催しました。「環境技術、いかにして国際競争力に結びつけるか」という視点から今年1月からのCO2排出規制に対応した省エネルギー・環境対策技術をめぐって6名の講演者がそれぞれ講演を行いました。国際的な排出規制や環境技術への関心の高さを反映し、会場には約350名の人々が来場し、熱心に聴講しました。

講演は前半の特別講演と後半の研究講演の2部構成。特別講演では、出張で欠席した国土交通省の森雅人海事局長の代わりに加藤光一安全・環境政策課長が「海事分野における環境技術行政の方向性」について講演。CO2排出削減に向けた枠組みづくりの進捗状況や天然ガス燃料船の推進などについて説明しました。

ナカシマプロペラの中島基善社長は「クオリティ海事国家への挑戦～理念と取り組みへの提言」と題して講演、「海事クラスターをデジタルとアナログの要素による複合体と考えるような「クオリティ海事産業」として取り組む。マーケットは世界であり、販売品目はジャパン・クオリティ。日本的な和と団結力を打ち出していくことが重要」と語りました。

日本海事協会(NK)の中村靖副会長は「日本の将来技術をどう構築するか」と題して講演。NKが近年、異業種サービスと国際的にコラボレーションしている状況を紹介し、今後の海事産業について「国内で完結できて生き残れる事業ではない。海を越えてコラボレーションすることだ。世界に出て行くのは大変だが、それに耐えられるだけの能力を日本は持っている」と語りました。

後半の研究講演では、当研究所の佐々木紀幸研究統括主幹・EEDIプロジェクトチームリーダーが「EEDIフェーズ3に向けた海技研の取り組み」、宇都正太郎流体設計系長が「船舶の実海域性能向上への海技研の取り組み」、千田哲也研究統括主幹・海洋環境評価系長が「動力システムの省エネルギーおよび環境対策の動向」についてそれぞれ発表しました。

なお、同日は会場入口でHope Lightの展示・説明コーナーも開催されました。